



TITLE:

各地で観測された日食 (日食報告
号)

AUTHOR(S):

CITATION:

各地で観測された日食 (日食報告号). 天界 1936, 16(184): 399-402

ISSUE DATE:

1936-07-25

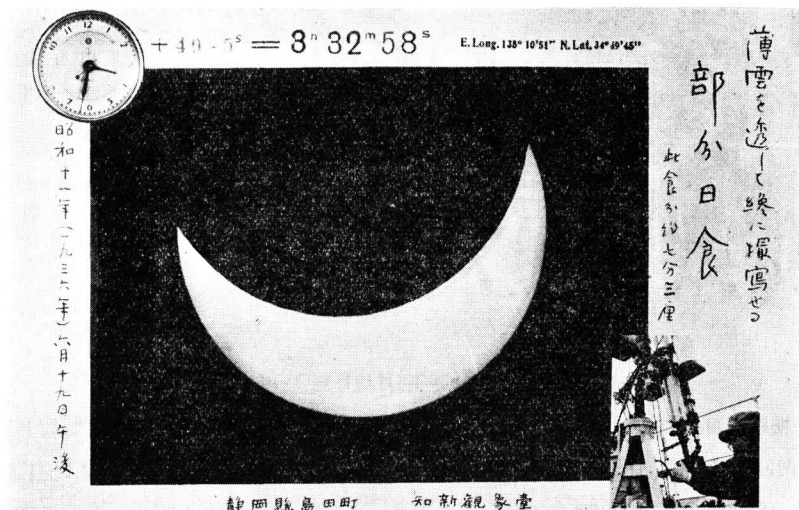
URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167272>

RIGHT:

各地で観測された日食

薄雲を透して終に撮寫せる部分日食(静岡)



(静岡縣島田町 清水眞一氏撮影)

拜啓 今回の皆既日食御観測に各遠征観測隊共御成功の御趣午蔭御喜申上候。當地は概して曇り食甚前後僅かに薄雲を透して撮影したる程度には候へども、固々部分食、大して期待も致さざる代り、あまり遺憾とも存ぜず候。食甚近き一葉丈凡作ながら同封致候。左上は電氣時計面を同時撮影(16m シネカメラにて)によりたるもの、レートあまり正しからず、只時報及其近接時刻のものゝみが利用し得る程度かと存じ、同寫眞の $+49.5^\circ$ は3時30分の時報の修正値にて候。

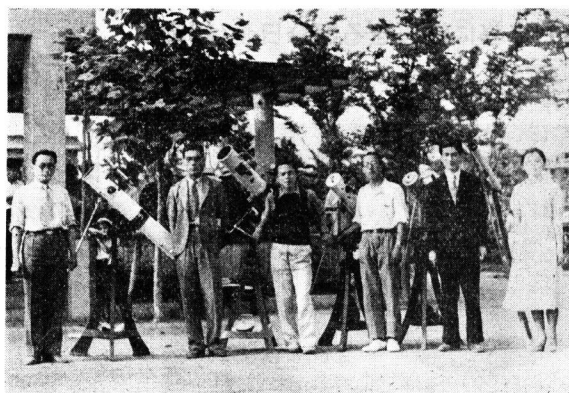
當6分太陽観測報告同封致居候 (下略)

静岡 清水 眞一

京都の日食

前略 天候に恵まれ天文臺諸先生の各日食観測班が充分の仕事をして歸臺致された由、お欣び申して居ります。扱京星會でも當日部分食の観測を

3班に分れ行つたのですが、一中、藤井天文臺のものは既に報告済と存じますので二條公園のものを遅ればせ乍ら御報告致します。 京星會員による

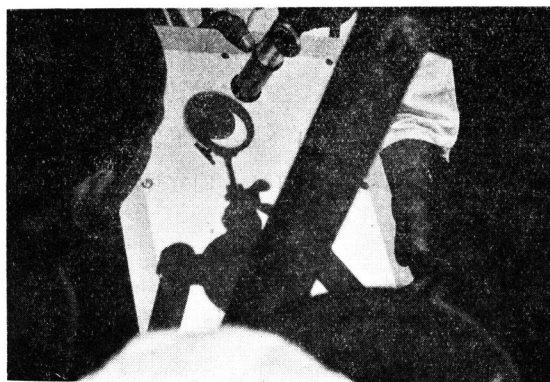


安東(四センチ屈折)
高井(一センチ反射)
池田(一〇センチ反射)
坂井(一センチ反・赤)
西村(一センチ反射)
岩崎

二條公園 1936年6月19日部分日食観測

接觸観測 ロンデン懐中時計使用 観測場所に2臺の鑛石受信機を装置し、 13^h30^m , 15^h30^m , 16^h30^m の時報を聴取して保持に努めた。各時に於ける時計誤差 $13^h30^m(0)$, $15^h30^m(-0.5)$, $16^h30^m(-1.5)$ (ー)は時計秒針の進みすぎ。

01, 02 と秒針をル1にて讀取り口唱する。目耳法、時計係、高井博典
下記價は時計誤差を修整せるもの。



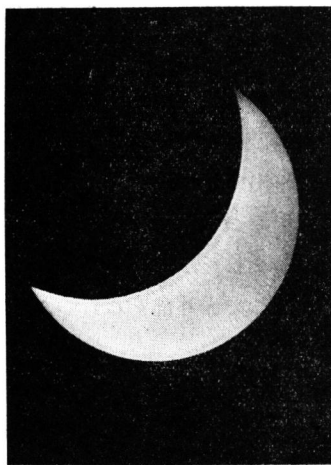
初虧	$h \quad m \quad s$					
	14	16	40.5			
	40	坂井	弘			
	44	岩崎	房治			
	55	池田	廣海			
		窪田	芳憲	11cm無銀反射經緯臺	83×	直視
				11cm(5cm絞)反射經緯臺	37×	”
				11cm(5cm絞)反射經緯臺	45×	”
				4cm屈折經緯臺	33×	投影

復圓	h m s							
	16	36	8.5	池田 廣海	11cm反射赤道儀	同一機	40×	投影
			9.5	安東千恵子	11cm反射赤道儀		40×	”
			9.5	西村繁次郎	11cm(5cm絞)反射経緯臺		45×	直視
			14.5	岩崎 房治	11cm(5cm絞)反射経緯臺		37×	”
			19.5	坂 井 弘	11cm無銀反射経緯臺		83×	“

観測地点は京都放送局(電話にて照會するに、東經 $135^{\circ}44'57''$ 北緯 $35^{\circ}0'50''$ 海拔 45m 天測、地測の別、経緯度決定年月不明)の正南約 70m 二條離宮の西北隅、以上御報告まで 敬具 高 井 博 典

大 阪 の 日 食

大阪 伊達英太郎



(15時31分01.5秒撮影)

去る6月19日部分日食を連続14枚撮影致しました。これらのデ1タは11cm反射赤道儀を8cmに絞り(8cmの口径のソレントン・シャツタ1を筒口に使用した爲)25mm ミツテンズエ1型アイビスを用ひて直径5cmに引伸し、フジ及イルフォ1ドプロセス乾板使用。クロスフィルタ1(R1)赤色、シャツタ1 $\frac{1}{100}$ sで、稍露出過度でしたが黒點も出ております。

次に初虧と復圓のコンタクトは8cm銀無し(太陽専用)反射望遠鏡を用ひ(×70)

決定し、初虧 $14^h15^m59.^s0$ 、復圓 $16^h36^m13.^s2$

と出ました。上記寫眞撮影の時計及初虧、復圓の時刻は、共に clock-face に error を差引いた(error は $3^m14.^s5$) corrected time であります。

尙當地の経緯度は $\frac{1}{25,000}$ の陸地測量部地圖で計りました所

E $135^{\circ}24'18.''7$ N $34^{\circ}49'20.''5$ Altitude(約)60m

となります。

松 本 支 部 よ り

6月19日朝來快晴。本日日食囓かし見事ならんと喜び居りし所、午後に至り所々に雲が出て参りました。始めの間は良く見えましたが2時半頃より薄曇りとなり、45分頃から密雲に閉され、50分頃は北風の雨風冷々と感ずる様になつてしまいました。55分頃薄日となり復見えるかと思ひし程もなく、3時7分全く観測不能となり、夕刻迄太陽は顔を出さずに終りました事は残念でした。 6月20日 松本 上條清人

北 見・澤 木 に て

香川 森 安 千 秋

豫定の如く北海道へ出掛けましたが、雲の爲に部分食寫眞は1枚もとれず大いに失望致しました。皆既前10分位に太陽が雲を出て皆既後5分で又雲にかくれました。観測地は雄武と興部との中間の澤木で、皆既中4枚の寫眞をとりましたが、2枚しか出来ませんでした。機械は5センチ半の経緯臺の屈折鏡の對物部にソルトンシヤタ1をつけ、大名紙型の乾板を使用しました。イルフォ1ドの H. S. パンクロで15分の1秒の露出でやりましたらプロミネンスは見事にとれました。同じ乾板で2秒の露出で撮つたコロナは内部の方が露出過度になり、黒い月のデスクがぼけて終ひました。他の2枚はアグファの855に、ウルトラジン7號のフィルタ1を使つて赤外部をねらつたのですが、勿論ものになりませんでした。

皆既日食大成功 月の影の日本最初の上陸地 稚内にて 神戸支部會員 神田臺雄

